



No.50

2008.11.9

神奈川県サッカー審判協会

藤沢市湘南台1-6-7
小宮ビル5F
県サッカー協会審判委員会内
TEL. 0466-46-5602

「1級審判員を終えて」

砂川恵一

(3月22日の講話より)

1 はじめに・・・定年はなくなる

審判協会の総会でお話しするのは、2000年の3月5日に続き2回目になります。

今日は「1級審判員を終えて」という演題でお話しいたします。レジュメにありますように、1989年の1月に1級に登録され、2007年度で、50歳定年ということになりました。卒業することになりました。卒業することになったら、今年度から定年はなくなりました。

定年をなくすことは、他の2級、3級、4級にも適用されると思いますが、それは、1級の技術、技能の力があれば55歳でも60歳でも構いませんという考え方なので、同じようになるのではないかと思います。

その逆の考え方もあり、1級の力がないのに1級の名前を持っているのはいかがかということで、降格という考え方も出てきています。さらに、1級のチャレンジは35歳以上ということでしたが、年齢制限もなくなりました。2008年度から、考え方としては、1級にたえうる力を持っているかどうかということで、年齢には関係なくなりました。

2 1級としての19年の経験

私は1級として19年間行いましたが、今日は失敗した経験(レジュメの②、③、④、

⑥)と1級審判員について(レジュメの①)レスリー・モットラムとの出会い(レジュメの⑤)をお話ししたいと思います。

Jリーグは1993年5月から始まりましたが、J1では主審を140試合、副審を27試合、J2では主審を73試合行いました。合計で丁度240試合となります。その中でいろいろと失敗したことがあります。

3 私の宝物

まず1級をとった年の11月に高校選手権の決勝の主審をしました。

当時は2枚目の警告で退場というのは、あまりありませんでした。試合の前半に、日大藤沢の選手が後方から悪いタックルで警告をもらい、後半にももらい退場となりました。

一人少なくなってから、桐蔭学園が有利になり、その試合は桐蔭が勝ちました。この試合のあと、勤務先の学校に3通の匿名の葉書がきました。がんばってくれという励ましの手紙だったのですが、今では、私の宝物になっています。

4 見えなかったハンド

Jリーグが始まり、最初は副審でしたが、1年半の間に27試合を行い、94年から主審になり、国際審判員になることができました。国際審判員は3年行いました。

95年の4月15日の「ジェフユナイテッド市原対読売ヴェルディ」の試合です。当時はまだ、線審、予備審と呼んでいました。

ジェフの中西永輔選手とヴェルディのラモス選手が並走していて、中西選手がラモス選手の目の前で手を差し出してボールをさらって前へ行き、左サイドからセンタリングをあげ、ジェフの後藤選手が得点し、Vゴールとなった。私は中西選手とラモス選手の後ろから走っていたので、ハンドは見えませんでした。ラモス選手は、目の前で見ていたので、怒り、更衣室の周りで大声でわめき、なかなか帰れない状況でした。翌日のスポーツ新聞で、私が写っていない新聞はありませんでした。この件は、スタートした頃でありましたので、印象に強く残り、大変な試合という思いをしました。

この後、謹慎になり、1ヶ月の研修になりました。それで、2試合ほどキャンセルとなりました。謹慎になったのはこれだけでした。

失敗した原因は、串刺しで見えないという角度の悪さということで、まだ審判技術が下手なところがあるということでした。

5 国際試合での体験・・・インドネシア

次は、国際審判員として主審をした、96年9月の香港スタジアムでの試合です。この時は、アジアウィナーズカップという国際大会とインドネシア国内大会のジャカルタダンヒルカップという二つの大会が続けてありました。

ジャカルタの時は、京都の片山さんと一緒に、準決勝の主審と決勝の主審予備審を片山さんと二人で行いました。

香港では、香港の「サウスチャイナ」とインドネシアの「マストランズ」との試合でした。インドネシアのチームは、直前に試合をやっている疲労のため、やる気が見えなかった。点数をとられており、一人の選手が後方からの著しく不正なタックルで、一発で退場をとりました。選手は何だよという感じで騒

ぎ始め、私を小突くようなこともしました。そして、退場になった選手が競技場を出て行くとき、香港の競技場はイングランド形式でピッチと同じレベルに観客席が近くにあるのですが、スタンドからその選手に対して、ペットボトルが投げつけられた。そしたら、マストランズのチームは怒り、試合をやりたくなかったこともあり、選手を引き上げさせた。その後、試合は1時間中断したが、マッチコミッサーが説得し、残り時間の試合を行った。試合は、結局サウスチャイナが4対0で勝った。

このマストランズというチームが、ダンヒルカップの準決勝進出チームに残っていた。マストランズの試合では何か起きるかと思いましたが、結局マストランズが優勝しました。何故、私たち二人がインドネシアの国内大会に呼ばれたかと言いますと、宗教的な問題や様々な問題があって、部族間の対立とか、地域と地域の対抗意識が強くあるからです。試合において凄いのは、発煙筒はたかれ、コンクリートの座席を壊して投げたりする。コーナーキックの場所では、軍隊がいて、選手が安全に蹴れるように守っている。ピッチの周りは堀になっている。堀の中には、ペットボトルや石がころがっている。ペットボトルにはおしっこが入れられていることもある。

競技場に入るときも両チームのサポーター同士が喧嘩していて入れない。ホテルに入ったときもレフェリーということは言うなといわれ、二人してホテルでじっとしていました。

決勝は片山さんが主審をし、私はフォースをしましたが、スコールの状況の中で、マストランズが優勝しました。試合終了後は、センタースポットに向かって走れと言われて、そこへ走ると、片山さんと一緒にごついボディガードにつかまれて、私たち二人は、もの凄い勢いで、スタンドの中の更衣室に連れて行かれました。なかなかできない経験をしました。

マストランズは私を見るとあいつだと言って怒ったような顔をしていました。

国際審判員の3年間は、このようなことも含め、いい経験をさせてもらいました。

6 監督を退席にしたケース

次は、今日もいらしている武田さんと組んだ二つの試合です。

私が主審をしていて、監督さんを退席させたのは1度だけでした。2003年8月30日の、柏対ガンバ大阪のゲームです。

ガンバのベンチの目の前で、遠藤選手がドリブルしてきたところを相手選手がタックルしてきて倒されましたが、ノーと言ってファウルをとりませんでした。西野監督は怒って、何だよファウルじゃないかと言って、持っていたカバンを投げ入れた。これはだめだと思って、アウトオブプレーにして西野監督の前に行き、出て行ってくださいと言いました。しかし、後からビデオを見るとファウルでした。私がファウルをとらなかったのは悪かったと思っています。ファウルをとれなかったという思いもあって、西野さんと顔を合わすと何となく気まずい思いをしました。

7 ルールの適用ミス

もう一つは、2005年5月8日の、鹿島対東京ヴェルディの試合です。

ヴェルディのゴールキーパーの高木選手が鹿島の小笠原選手を手でトリップし、決定的な得点の機会の阻止と言うことで退場としました。ここで、ヴェルディは交代選手が3名行われていたので、誰かがゴールキーパーをしなければならず、ワシントン選手がゴールキーパーをするために手袋をつけました。終了2～3分前なので、何を血迷ったのか、そのままやらせてしまいました。試合終了後、さんざん叱られました。フィールドプレーヤーがゴールキーパーに代わるには、ジャージを替えなければならない。こういうルールの適用ミスをすると言われてきました。

この時は、謹慎はなかったと思います。

J1の主審を140試合もやった中では、失敗したことしか覚えていないものです。

8 人の本質は変わらない

次に話を戻しますが、1級審判員の資格をとったときのことです。「人の本質は変わらない」ということについてです。

1級の審査は、一次試験、二次試験、三次試験とありまして、四月から五月の一次試験は2試合、二次試験は教員は、夏の暑い時期に行う全国教員大会があり、蕪崎でありました。三次試験は大学生の試合を二試合行いました。その時のアドバイスを振り返りますと、同じ事ばかりを指摘されています。今でもかわらないのですね。1級になる前も、1級になってからも、同じようなことを言われています。考えてみれば、同じ肉体と頭脳と心をもつ人間がやっているのだから、当然なのかもしれません。ゴール前のフリーキックなどのセレモニーが上手でないということは、ずっと言われてきました。

それでは、何が変わるのかなと思いますと、経験を重ね、どのようにすれば審判技術が身につくかを考え、工夫することによって、技術とか考え方とかが変わってきていると思います。こういうふうにしたらよいというような考え方とかやり方とかが変わってくるのであって、個人個人の本質は変わらないのではないかと。そのことを理解し、考え方ややり方をどのように変えていくかが大切どころであると思います。

9 1級の資格取得システムが変更

今年度から1級の資格取得システムが変わりました。

一次、二次、三次というのは変わりませんが、関東の中で指導していくというシステムになりました。今回は7人が挑戦していますが、関東の地域で関東の指導員が指導して、1級に昇格させるというシステムに変わりました。今までは、日本協会の指導員が見ていました。

その初年度ですが、7人の一人に、神奈川の秋沢さんが参加しています。筑波で練習を行ってきたところですが。

地域で1級をつくるシステムですが、指導は、関東の6～8名ぐらいの指導員が1年を通して指導していきます。東北や北海道、関西、九州、北信越などで行うことになります。関東では、7人の1級候補の下に、関東トレセンをつくり、10人前後の審判員をピックアップし強化しています。この中から、5人は1級候補にしようとしており、関東協会としては、このような考え方で進めようとしています。関東トレセンに入り、次の年に1級候補に入るという2年間のスパンで育成しようということで、スタートしています。なかなか大変ではありますが、1級を受けようという人は、まずは関東トレセンにチャレンジしてください。もちろん、大学や社会人で評価を受け、推薦され1級候補になる道もあります。

神奈川の中でも、このような中に入れる人材を育てていきたいと思えます。

1級は120人くらいいますが、毎年7～8名くらいずつ替わっていきます。この6～7年みますと1級は受かっていません。ですから、しばらくすると、1級審判は半分近くはいなくなる状況です。そのため、若い人の育成が急務です。現実には、35～40歳前後ではレフェリーを担当する人が不足しているのが現状です。

逆に言いますと、すごいチャンスではないかと思えます。主審としての可能性を評価されれば、チャンスをつかむことができます。

新2級では、今回神奈川はベテランの方が多かったが、東京では20代の若い人たちが多くいます。これは、関東の学連の力が大きいと思えます。

審判の供給源となっているのは、関東の大学の学生が自分たちの試合をするために、3級なりの審判資格をとり、育てています。彼

らは、意欲的であり、上手です。走れるし、判定力も持っています。こういう人たちが、1級の候補にもなっています。

神奈川では、どうするかということも考えていかなければなりません。

10 モットラム氏との出会い

最後のことです。94年、95年、96年の時は自分自身としては、国際審判員になってはいましたが、技術的に下手であると思っていました。

96年に国際審判員を迫って、Jリーグの試合をやっていますが、やはり、うまくいかないと悩んでおりました。その96年のアトラクタ五輪のあと、レスリー・モットラムは日本に来て、川崎の宮前平に住み、Jリーグの審判をしました。モットラムは親日家で、奥さんも含めて日本のことをよく知り、身に付けようとしていました。モットラム氏とは英会話の勉強をしていただいたりしました。そのような中で、私が困っていたり、迷っていたり、うまくいかなかったことなどを質問をすると、エンジニアである彼は理論的に整然と話をしてくれて、私の頭の中が整理されてきました。私の頭の中では、箇条書きに整理するほうでしたので、一つ一つ箇条書き的に、納得して、整理されてきました。

そうすると、審判をするとうまくなります。とても助かりました。それから、私は審判をするときは、自己評価をしながら、ゲームを行いました。自分が納得できるところと、納得できないところがどうかということ进行分析できるようになりました。人の点数をそれほど気にせずにできるようになりました。

11 自己評価をしながら分析・整理する

このような作業は、自分自身の中では、いつもできることは書き出して、9ページ分の記録にしております。それによって、何が大事かも整理し、人にも話ができるようになりました。

このようなことをしながら、上手になって

ほしいと思っています。

レフェリーは職人ともっています。職人という師匠と弟子の関係がありますが、少しでも、師匠の技術を身につけてほしいということをおせば、こういう内容を是非良く読んで、理解してもらい、早くうまくなってほしいと思っています。

そのため、審判協会でも、4級から3級になるための指導を始め、セミナーを行っています。セミナーでは、この資料のような内容を行っており、かなり難しいこともあります。

最初は大変でしたが、できるようになればあとは楽です。今まで、言われたことがないことを話しているので、大変ですが、後から楽になるし、うまくなると思っています。

12 私たちの財産は人である

そして、50歳から60歳の時は、神奈川で恩返しをしなければならない10年間であると思っています。そういう思いでセミナーを立ち上げ、がんばろうと思っています。1年間で10人つくり、10年で100人になります。この人たちが、2級になり、1級に育てばいいなと思っています。そして、その

人たちが、後進者を育てていければいいと思っています。

私たちの財産は、人だと思っていますので、人材を育てたいと思っています。

審判協会では、勉強会を行う予定です。年間24回のトレーニングをパナソニックの鴨居のグラウンドをお借りして、勉強会は年12回県民センターで行う予定です。

このようなことを行いながら、人材育成に努めていきたい。

13 おわりに

最後に、若い人たちには、海外の試合を観戦することをお勧めしたい。ワールドカップもいいですけど、今年はユーロの大会もお勧めです。

機会があれば、海外の試合を見てください。

いくつになってもうまくなれると思いますし、仲間作りも大切だと思います。またご協力をお願いしたいと思います。

これまで、皆さんに支えられてここまですることができ、無事に終えることができました。仲間の皆さんに、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

(文責：編集部)



講話中の砂川さん

神奈川県サッカー審判協会 平成20年度総会について

神奈川県サッカー審判協会平成20年度総会は、平成20年3月22日(土)午後5時15分から、横浜市のかながわ労働プラザで43名が参加して行われた。森田会長のあいさつの後、今井理事長から、平成19年度の事業報告と決算報告及び高橋監査役から監査報告が行われ、承認された。監査役からは、会計年度の取り扱いと積立金の預金方法について検討したらどうかとの指摘があった。

平成19年度は、審判員の集いを3回行ったこと、4級審判員を対象にしたレフェリーセミナーは、前期8名、後期10名の参加を得て実施したこと、Jクラブ観戦研修会として、平塚スタジアムで、砂川理事のJリーグ最後の主審を観戦し、引退祝いと懇親会を実施したことなどが主な事業である。収入は、年会費、レフェリーセミナー受講料などで、約104万7千円、支出は、総会費、研修会費、印刷製本費などで約83万1千円であった。差し引き残高は、20年度へ繰り越すこととした。また、積立金特別会計の残高は、約174万円である。

次に、今井理事長から、平成20年度の事業計画案、予算案について提案があり、原案通り承認された。予算内容は、収入は会費が228人分で45万6千円、レフェリーセミナー受講料が18人分で45万円などで、約121万1千円、支出は、総会費、レフェリーセミナー費、研修会費、通信費、印刷製本費などで、収入と同額である。

また、理事としてこれまで活動されきた蓼沼隆夫さんと近藤信雄さんのお二人が、ご都

合により退任され、滝沢好一さんと芝崎慎一さんが新しく理事となることが承認された。今後のお二人のご活躍を期待したい。

その後、砂川恵一氏の講話「1級審判員を終えて」(講話内容は別に掲載)を行った後、会場を別室にかえて、懇親会を行った。

懇親会では、柏原審判委員長によるあいさつと乾杯を行った後、慶弔規定にもとづく記念品の贈呈を行った。記念品贈呈の対象者は、国際副審昇格の岡野宇宏さん、フットサル1級昇格の小野寺祐さん、1級昇格の前田敦さん、2級昇格の水島重成さん、3級昇格の椎野正幸さん、関東の10年表彰の高橋雅彦さん、結婚の大塚真さんの方々でした。当日出席された方々は次のように抱負を語っていただきました。

前田さんは「9年間やってきて、1級となりました。しっかりとこのカテゴリーで結果を残していきたい。」

椎野さんは、「サッカー経験はないが、長男がサッカー少年団に入っていたので、3年前にセミナーを受講した。3級になり、地域でのサッカーに関わっていきたい。」

高橋さんは、「47歳で2級になり、10年間活動してきました。これからもがんばりたい。」

大塚さんは、ご夫婦で参加され、初々しい表情で、喜びがあふれる中で、審判活動に取り組まれるとのことでした。

その後、恒例のアトラクションを行い、楽しい時間を過ごし、最後に全員で記念写真をとり、懇親会を終えました。

平成20年度神奈川県サッカー審判協会事業計画

- 1 会員証の発行と配布 会員数 207名
- 2 諸会議の開催
 - ・総会 年1回(平成20年3月22日開催)
 - ・理事会 年4回
 - ・運営委員会 年4回
- 3 会員相互の懇親会の開催
 - ・宿泊懇親会 年1回(1月に開催)
 - ・総会時に開催
 - ・研修に伴う懇親会
- 4 レフェリーセミナー 4級審判員を対象に実施
 - ・前期 4月～9月 座学及び実技
 - ・後期 10月～3月 座学及び実技
- 5 2・3級審判員のための勉強会 (新しい企画)
 - ・体力トレーニングと主審・副審のための基本的なトレーニング
 - ・企業のグラウンド、体育館、公共施設の会議室を利用
- 6 研修会
 - ・Jクラブ観戦研修会,
 - ・実技研修会
- 7 地区審判のつどい
 - ・県下4地区に分け、持ち回りで計画
 - ・上級審判員の講話や意見交換など
- 8 協会ホームページの運営
 - ・ホームページのリニューアルと運営、管理

平成20年度神奈川県サッカー審判協会予算

<収入の部> 1,211,140円

項目	金額(円)	摘要	19年度決算額(円)
年会費	456,000	2000円x228人	456,000
入会金	54,000	3000円x 5人	93,000
協賛金収入	35,000	協賛会員会費	35,000
受講料	450,000	25000円x18人	450,000
雑収入	800	預金利息	13,033
前年度繰越金	215,340		0
計	1,211,140		1,047,033

<支出の部> 1,211,140円

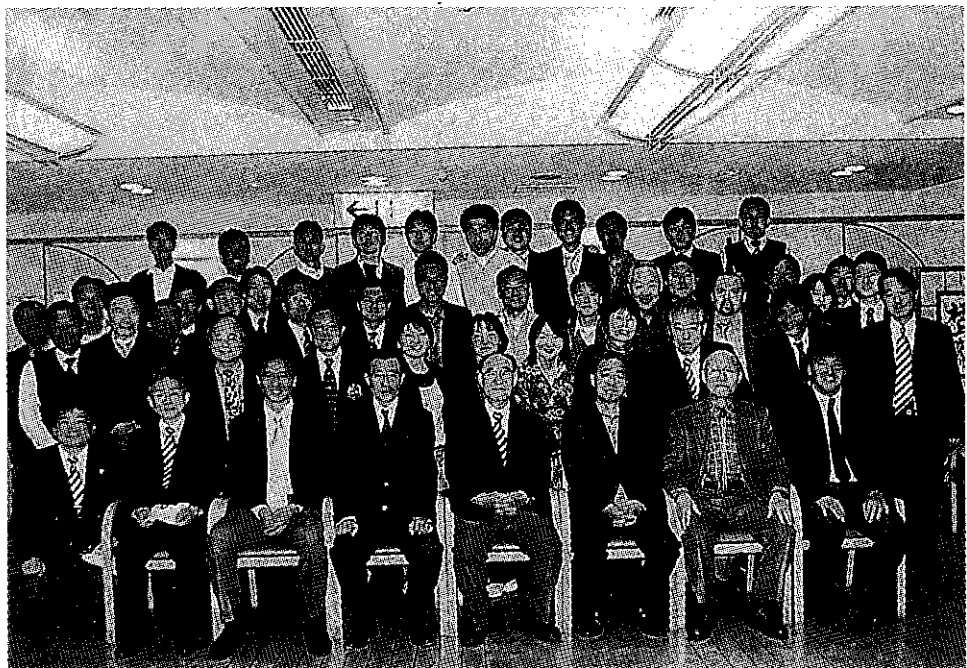
項目	金額(円)	摘要	19年度決算額
総会費	40,000	会議費、講師謝礼、資料代、景品代など	43,454
レフェリーセミナー費	450,000	セミナー運営経費	454,748
研修会費	80,000	見学研修、審判員の集いなど	38,799
会議費	30,000	打ち合わせ会議等	10,600
消耗品費	10,000	一般事務用品	6,072
通信運搬費	100,000	切手代、HP運営費など	28,925
旅費交通費	100,000	会議等交通費	65,560
印刷製本費	130,000	広報印刷、会員証印刷など	109,045
慶弔費	60,000	昇格祝い、結婚祝い、見舞いなど	30,000
賃借料	20,000	会議室使用料	9,490
諸謝金	40,000	記録広報担当、会員受付担当	35,000
予備費	151,140		0
計	1,211,140		831,693

<積立金>

積立金運営基金 1,744,376円



総会：今井理事長の報告



参加者全員で

神奈川県サッカー審判協会のホームページを新しくしました

審判協会のホームページを更新しました。2・3級審判員の勉強会の案内、レフェリーセミナーのお知らせ、事業報告や理事会の報告に加え、関東の審判協会の第2回交流大会の結果も掲載しています。（RA神奈川は見事優勝）

また、入会案内も掲載しており、EメールやFAXによる申込が可能ですので、お知り合いの方を是非お誘いください。



Kanagawa Football Referee Association

神奈川県サッカー審判協会